

水辺での 笑顔を守る 着けよう！必ずライジャケ

※ライジャケ＝ライフジャケット

水辺は魅力的な遊びと学びの場。
しかし、大きな事故や命を奪う危険性もあります。
子どもも親も、みんなが自然豊かな西条の自慢の
フィールドで遊ぶためには、普段から事故予防を
意識し、危険に備えることが大切です。
この夏を、そしてこれからずっと楽しく安全に
過ごすために、水辺での子どもの安全について考
えてみませんか。今回は、特に遊ぶ方が多い加茂
川を始めとする「川」に焦点を当てます。

川のリスクを知ろう

●水難事故と川の特徴 (河川財団調べ)

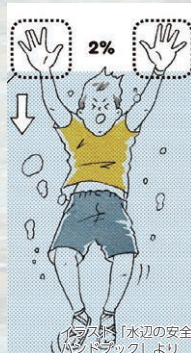
- ・水難者の約**60%**が死亡・行方不明
死亡や行方不明以外にも、重体などの重大な結果を招くケースも多く見られます。
- ・**7・8月**に水難事故が多発
2ヶ月で年間の50～60%の事故が発生。
暑さや疲れが溜まる午後にも注意。

・体が浮く割合は

2%

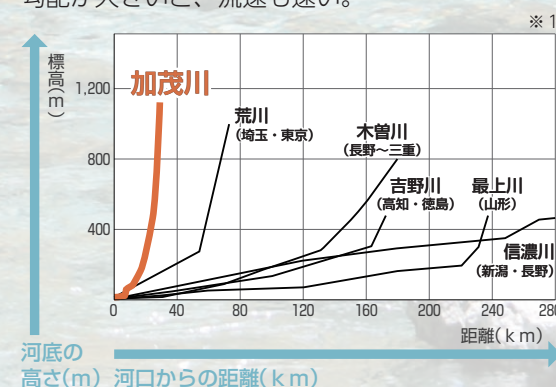
※肺に空気がある状態

海より川の方が浮きにくい。
助けを求めると、肺の空気が抜け浮力が減少。手を上げることによって頭部がより水面下に沈みます。(水難学会調べ)



●身近な加茂川にも危険が…

- ・**1/38**。全国水難事故多発地点の一つ
過去10年間にほぼ同じ場所で死亡事故が3件以上発生している全国38カ所の一つ。(河川財団調べ)
- ・川の勾配が全国**トップ**レベル！
河口から山までの距離が短い加茂川。
勾配が大きいと、流速も速い。



身近にある 川には 魅力も危険も！

子どもの水難死亡事故は、約6割が川と湖沼地で発生しています。川は全国どこにでもあるだけに、不慮な事故が起こりやすいフィールドです。幼児や小学生でよく見受けられるのは、1人で遊んでいて河岸から転落して溺れるパターン。中学生だと、増水時の川とか大きな川で遊んでいたときなど、冒険的な行動による事故が多いですね。

水難死亡事故の多くは溺死。水難学会の調べによると、川は真水に近いため、人は肺に空気を入れた状態で体の2% (頭のてっぺんぐらい) ほどしか浮きません。そのため呼吸もできず、約1分で致命的



菅原 一成さん

(公財)河川財団子どもの水辺サポートセンター主任研究員。子どもたちに川への理解を深めてもらう活動を行う。



な状況に陥ります。プールとは違い、川には流れがあり、瞬時に下流へ移動します。増水すると流れも速くなるので、事故のリスクも高まります。

水は高いところから低いところへと流れて集まり、やがて海に注ぎます。大きな質量を持った水が、重力により移動することで、大地を削り土地の様子を変えるほどのエネルギーを生み出します。川は巨大な力を持つ大自然そのものです。川は身近で魅力的である一方、瞬時に事故が発生する場所。楽しく安全に遊ぶためにも、心得と知識を身に付けて、正しい装備で川に入ることが大切です。

西条市と 吉川慎之介記念基金

これまでに吉川慎之介記念基金にご支援を
いただき、西条市ではさまざまな子どもの
安全に関する活動が実施されています。

ライフジャケットの寄贈

平成29年、吉川慎之介記念基金から子ども用ライフジャケット100着が寄贈。
平成30年4月1日から、消防署に無料で借りられる全国初の「ライフジャケット
レンタルステーション」を設置。
※今年度の貸し出しは準備中。7月下旬から再開予定（詳細は広報8月号で紹介）



子ども安全管理士講座

保育・学校事故の遺族や、事故原因と再発防止を考えるために出会った先生方と
共に考え、発足させた講座。西条市では第1回を令和元年に開催し、第2回以降は
愛媛大学との地域連携事業として、毎年継続的に開講。（詳細は11ページ）

パンフレットなどの寄贈

令和2年、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で、水辺での事故防止など
子どもの安全管理を目的とした啓発パンフレットおよび動画を制作し、寄贈。パン
フレットは、市内の全小・中学生などに配布。



パンフレット・
動画などの詳細▶

二度と繰り返さない 子どもの未来のために

2012年7月、幼稚園のお泊まり保育中に当市の加茂川で
亡くなった吉川慎之介くん（当時5歳）。母である吉川
優子さんは、現在、事故の再発防止と未然防止の啓発活
動に取り組んでいます。その活動の原動力を尋ねました。

慎ちゃんのために

幼稚園のお泊まり保育中、ライフ
ジャケットを着けずに川遊びをして
いて起こった事故。事故を防ぐため
の仕組みや制度がないことを、吉川
優子さんは当事者になって初めて知
りました。事故後、事故の原因究明
と、再発防止に向けた活動を始めま
した。「多くの遺族の方が事故の実
状を知らされないまま、長い間置き
去りにされていることに驚きまし
た。慎ちゃんの事故だけが特別なこ
とではなく、皆さんが苦労されてい
ることを初めて知ったのです。これ
は事故予防の公的な仕組みが必要だ
と思ひ、活動を始めました」。法的・

繰り返さない。それに尽きます
ね」。この活動の始まりと中心
にはいつも慎之介くんの存在が。
慎之介くんがつかないでくれたか
らこそ「子どもの安全」への道
筋が形となっています。

チャレンジできる環境を

「1人じゃ子どもの命を守れ
ないんです。慎ちゃんの事故も、
ちゃんと安全についての情報共
有ができていなかったんですよ
ね。子どもに関わる人たちが同
じ知識や意識を持って、お互い
を信頼し、子どもを育てていく。
これが慎ちゃんの大きな教訓。
情報共有しておくなど、人との
信頼関係が、安全・安心な社会
につながるんです」。保護者は
もちろん、教育に関わる全ての人が
安全について学ぶことが、子どもを
守ることにつながります。

「多くの人がこの社会は安全だと
思って生きている。でもそこにはい
ろんな対策がされているんですよ。
安全に全てのリスク排除ということ
ではありません。子どもの命を育む
ため、チャレンジできる環境を整備
するのが安全対策であり、楽しく遊
ぶための大切な準備なのです。子ど

1人じゃ子どもの命は守れない

もたちを楽しませてあげたい気
持ちはみんな一緒。子どもって
無防備なときもあるから、大人
が理解してあげないと。思いだ
けでは子どもは守れないですか
ら」。

吉川さんの活動をきっかけに
制度や仕組みなどが少しずつ整
ってきています。「ライフジャ
ケットの着用体験などを通じて、
子どもから学ばされることもあ
りました。子どもも大人も一緒
に学び合い、安全な環境づくり
をしていくことが、大事なんだ
なと。安全な環境で楽しむ。そ
の第一歩がライフジャケット」。
吉川さんは教訓を生かし、これ
からも「子どもの未来のため」
に活動を続けます。



▲市内イベントに参加。ライフジャケを啓発



吉川 優子さん

神奈川県在住。2014年に（一社）吉川慎
之介記念基金を設立。代表理事として水
難事故予防と子どもの安全・事故予防啓
発活動を行う。

詳細は▼



(右) 子ども向けワークショップで、股下ベルトの重要性を伝える (左) 森重さんが大切にしている浮力の話。ライジャケを着けていない場合、人がどれだけ水に沈むかを説明



知っておこう！

正しいライジャケの着け方

ライジャケは「川のシートベルト」。

自分の命、そして周りの命を守るためにも水辺で遊ぶときは必ず着けましょう！

① 前のジッパーを閉める

② 横のベルトを閉める

③ 股の下にベルトを通して、
しっかり閉める

▶ 選び方のポイント

- ・年齢や体の大きさに合わせて、最適なサイズを
- ・発見しやすい目立つ色がおすすめ
- ・国が安全性を確認した証が入っているものもあります

マイライジャケを ゲットしよう！

川遊び人口が増え、レンタルできないことも。できれば購入して、水辺での遊びを楽しもう！

- ・モンベルアウトドアオアシス石鎚店
(西条市小松町新屋敷乙22-29)
- ・crosspoint 【クロスポイント】
(西条市中野甲1261-2)
- ・その他釣具店など



ベルトが緩いと、特に小さな子どもは、ライジャケだけが浮かんで首が締められ、危険！



森重 裕二さん

香川県在住。SNSなどを利用した情報発信や水辺の安全の講演、子どもたちを対象としたワークショップなどライジャケの普及活動を行う。西条市でも講演活動を実施。

詳細は▼



森重さんが作ったステッカー
西条でもお店などに貼っています



僕が守らなあかん

森重裕二さんにとっては当たり前だった「ライジャケ」。しかし教育現場では違っていました。「教員だったころ、子どもたちを水辺に連れて行く機会があったんですが、どれもライジャケを着けていなかった。その時は何も言えなかったんですよね。すると目の前で子どもが溺れて。助かりはしましたがこれは絶対にライジャケが必要だと」。翌年から、自分でライジャケをかき集め、着け方などの講習も実施。ライジャケ着用を少しずつ浸透させていきました。そんな矢先、近所の学校で2人が川に流され亡くなる事故が発生。「涙が止まらなかった。僕がもっと知らせておけば……。これはやらなあかん。守らなあかんって思った」。事故をきっかけに活動をスタートし、3年前には約20年勤めた小学校教諭を退職。自営業の傍ら、ライジャケの必要性を伝える活動をしています。

でこと。事前に準備しとく、話題にしとく、学んどく、ここがポイント。毎日発信することで「知る」きっかけになれば」と力強く語ります。情報発信以外にも、レンタルステーションの開設など、ライジャケを広めるためにさまざまな活動を実施中。「子どもを守りたくない親なんていない。みんな活動に賛同してくれる。西条で町中に僕が作ったステッカーを貼ってくれてるって聞いて、泣きました。小さい活動やけど、広がってんねんって。ほんとに感謝」。人と出会い、活動が広がり、応援してくれる人がいることが、活動への大きな力へと変わっています。今は子どもたちの意識を高めるため、絵本も作成中。「着けることで、泳ぎが苦手でも遊びの幅が広がる。コロナで水辺で遊ぶ子どもも多くなってるので、まずは絶対に着けることを意識してほしい」。その一方で「着けてたら絶対安心ではない。周りでしっかり見守ってほしい」と着用した上でのポイントも教えてくれた森重さん。「この活動は僕の使命みたいなもん。できることをとことんやって、ライジャケが当たり前の選択肢の一つになれば」。思いはただ1つ：子どもたちの命を守ることです。

楽しく安全に遊べる西条へ

「防げる事故から子どもたちを守りたい」。その思いが集まって、活動を始めました。活動内容は講座や体験など、「とにかく楽しく・ポジティブ」をモットーに、まち全体の子どもの安全に対する意識向上を図っています。事故が起こると楽しい景色も一気に変わってしまいますからね。私たちもそうですが、子どもたちにはそういう思いをさせたくないし、大好きな自然で遊んだ記憶を大切にしてほしいんです。

ライフジャケは子どもたちの活動の可能性を広げるアイテム。活動をし

ていく中で「借りて泳いでみたよー」など、周りからの声も増えてきて、年々ライフジャケを着けている人が多くなっているなと肌で感じます。少しずつ「子どもの命を守る」意識が、広がっています。

自然が豊かな西条市だからこそ、将来、子どもたちが安全に遊べるまちだと思えるよう、そしてその思いを次の世代につなげていける、そんなまちにしていきたいですね。今後は体験活動も増やして、子どもも大人も一緒に学べる機会で「水辺の楽しさ」を伝えていきたいです。



Love&Safetyさいじょう
代表 山崎 敦子さん

慎之介くんの事故をきっかけに、西条市全体の「子どもの安全」に対する意識の向上を図るため、平成29年から活動を開始。



crosspoint (クロスポイント)
店主 久保 一平さん

アウトドアショップのクロスポイントでライフジャケットの販売・レンタルを行う。



恵まれた場所で楽しい経験を

加茂川の近くでお店やってるけど、せっかく川があるのに触れないまま育ってしまうのはもったいないよね。僕も小さい頃から、自然で遊んでいろんな経験ができた。今でもそのときの水の色や魚とか覚えるからね。子どもたちにもそんな経験をしてほしいよね。

そのためにはまずはライフジャケを着けること。昨年からライフジャケのレンタルも始めて、けっこう借りに来てくれたよ。子どもも必要やけど、

親も持つといたほうがいいよね。助けるときに自分が流されてしまうけん。助け方を知っておくのも、子どもが楽しく遊べる一つのポイント。みんな持っておくことが大事やね。

川遊びはちょっとしたミスが連鎖し、大きな事故につながるんよね。今後は小学校で、川の危なさとか危険な場所とか教えることも予定してる。子どもたちには川の危険と楽しさを知ってもらい、それが広がっていくといいね。

子どもの安全を
学びました！



丹原高校3年生
近藤美咲さん 矢野美空さん 日野花音さん



活動を紹介したInstagram

地域で広がる子どもの安全

啓発活動やライフジャケットのレンタルなど、地域のために、そして子どもの安全のために西条市内で活動が続ける方の思いに迫りました。



西条市子ども 安全管理士講座



水辺はもちろん、部活や授業など子どもたちを取り巻くあらゆる場面にさまざまなリスクが潜んでいます。
講座はどなたでも参加できます。子どもたちの未来を守るためにも、一緒に学びませんか。

子ども安全管理士とは

大人が子どもたちと真摯^{しんし}に向き合い、子どもの命を守り育む社会を目指すために、吉川慎之介記念基金が平成27年2月に開設した資格認定講座。自治体レベルでの取り組みとして開講し、当市は愛媛大学と連携して講座を年間に2回開催しています。

受講対象

保育・幼稚園・小学校などで子どもに関わる職員、一般の保護者・地域の方

講座内容

子ども安全管理士講座教科書（日本子ども安全学会発行）の内容を中心に、子どもの安全・事故防止にかかわる多方面の専門家を講師に招いての講座

今後の予定

令和3年7月11日、令和4年2月予定（7月の講座募集は終了しています）
※開催案内は広報紙やホームページでお知らせします

その他

連続して4回受講された方に、西条市長より「西条市子ども安全管理士」に認定します。今後は愛媛大学と連携し、管理士を対象とした「子ども安全管理士リーダー養成履修証明プログラム」の実施を計画。より発展した内容を学び、地域のリーダー・指導者の養成を行う予定。



愛媛大学の教授から一言



愛媛大学法文学部教授
小佐井 良太さん

子どもの安全を地域全体で守っていくために

西条市子ども安全管理士講座は、2年間計4回の受講で子どもの安全に関する基礎的な知識と理解を得てもらうプログラムです。目標は、地域の中で子どもの事故を未然に防止するための知識や理解を広げること。子どもの安全・事故防止に関わる多方面の専門家が講師を務め、教育現場や家庭、地域の日常に潜むさまざまな事故のリスク

とその予防について具体的に学びます。

これまで4回開催しましたが、高校生からご年配の方まで幅広い年代の方に、また、保育士をはじめさまざまな職種の方に受講いただいています。講座が、事故を他人事ではなく自分事として捉え、地域全体で子どもの安全を守っていくための機会となることを願っています。

地域のために活躍できる人材育成のために

当センターは、地域に根差した地域活性化のための人材を生み出すことを目標の一つとしています。現在、小佐井先生が中心となって子ども安全管理士講座を実施されていますが、次のステップも大切かと思えます。西条市子ども安全管理士に認定された方が、次は職場や地域でリーダーとなり、安全文化の担い手として活動をされていく。

そのために必要な知識を学んでいただくための「子ども安全管理士リーダー養成履修証明プログラム」の提案や支援をしていきたいと考えています。

西条市の取り組みが「子どもの安全を特に重視しているまち」のモデルケースとなり、全国に広がっていくように、これからも連携して活動していきたいですね。



愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長
治多 伸介さん

水辺で遊ぶときの心得

楽しむことと安全にすることはセットです。
正しい知識・装備・行動で、大人も子ども一緒に水辺での遊びを楽しみましょう。

情報を確認しよう

▶気象情報や川の状況を小まめにチェック

天気がよく水量が少ない時でも、山で降った雨により突然の増水が起こることも。

○水位観測システム（加茂川に設置）

石鎚ふれあいの里上流の細野バス停留所付近に設置。水量が警戒警報レベルに達すると、スピーカーと赤色灯で注意喚起します。

○河川監視カメラ

市内7カ所に設置しています。スマートフォン向けアプリ「防災情報さいじょう」でリアルタイムの映像を見ることができます。



情報のまとめはこちら▶

正しい装備をしよう

▶必ずライジャケを

ライジャケのほかにも、速乾性のある服装や、かかとを固定でき水中で脱げないシューズなどを身に付けましょう。

正しい行動をしよう

▶子どもだけでは行かせない。

大人は下流側で見守ろう

子どもより上流にいと、流されたときに救助が間に合わない場合があります。慌てて飛び込むと二次被害につながる可能性があるため、子どもより下流側で見守りましょう。

▶危険箇所に近寄らない！

「きけん」の旗がある場所では遊ばせないようにしましょう。

危険な場所で遊ぶ子どもを見掛けたら、声を掛けたり、警察に通報したりしましょう。

○西条警察署 Tel0897-56-0110

○西条西警察署 Tel0898-64-0110

▶もしも自分が流されたら、「立たない」・「元の場所に戻らない」・「流れが緩やかな場所へ」



常に「もしも」を想定しながら
身を守りましょう！

